

編集後記

<編集顧問>

鈴木 秋悦
武田 佳彦
青野 敏博

<編集委員>

岡井 崇
神崎 秀陽
倉智 博久

“ギネ”と聞かされたときは驚きました。

“ノーフォールト”を執筆したのは、危機を通り越し崩壊とまでいわれる周産期医療の現状を多くの方々に知ってもらい、この領域の医師不足を増悪させている医療訴訟の問題をともに考えて頂きたいとの思いからでした。しかし、読んでくれた方の多くは医療関係者で、彼らからはそこそこの評価を頂いたものの、広く一般の方に読んでもらうという当初の目的は果たせないでいました。

そこへ、テレビドラマ化の話が持ち込まれたのですから、こんなに嬉しいことはありません。これで多くの非医療関係者にも私の考えを伝えることができると、諸手を挙げて喜んでいる所に、タイトルを変更したいとの要請が来たのです。

まず、プロデューサーの話を聞き、数日後、脚本を書いてくださる大石静先生もまじえて会合を持ちました。テレビ側は視聴者への受けとわかりやすさから“ギネ”を提案したのです。“ノーフォールト”に思い入れのある私は、“ギネ”は独語の gynäkologie の略で、正確には婦人科学を指すものだし、大体響きが悪い。“ノーフォールト”のほうが語感がやわらかく長さも丁度よい。“あなたのせいじゃない”と説明すれば中学生でも理解できる、などと抵抗しましたが、一方で思いを巡らせてもいました。プロデューサーも大石先生も、最初にお会いした日、「このドラマを、医師と患者の信頼関係を取り戻す作品にしたい」と熱く語っておられた。それが実現されるのであればタイトルはどちらでもよい、というより、多くの人に見てもらえるタイトルがよいに決まっている……。最後は、「すべてお任せしますので、よいドラマを作ってください」と返事を差し上げました。

日本テレビ夜10時からの水曜ドラマ、10月～12月の放送になります。

(岡井 崇)